

26年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 29.2	△ 20.8	△ 25.0
	マツ	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
	広葉樹	△ 21.4	△ 25.0	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 20.8
	マツ	△ 13.6	△ 22.7	△ 22.7
	広葉樹	3.6	△ 21.4	△ 10.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 20.8
	マツ	△ 41.7	△ 45.8	△ 37.5
	広葉樹	△ 39.3	△ 28.6	△ 35.7

チップ用国産原木の入荷はどの品目とも3ヵ月連続して減少。

・原木消費は11月の広葉樹がややの増加である以外は、どの品目とも3ヵ月連続して減少。

・在庫は、どの品目とも3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/11月	26/12月	27/1月
スギ・ヒノキ	18.2	9.1	4.5
マツ類	13.6	4.5	0.0
広葉樹	7.1	3.6	0.0

・チップ用国産原木購入価格は3ヵ月連続してやや強保合ないし保合。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・広葉樹原木の確保が困難。消費は変わらず。在庫減少は当分続く。
- ・針葉樹は、再生事業、国有林などからの入荷増と見込む。広葉樹は、針葉樹の入荷増で一時的に減少だがその後は回復する。
- ・バイオマス関係で針葉樹の入荷は月ごとに少なくなったが、広葉樹は変わらず入荷。
- ・針葉樹原木はバイオマスに流れている。針葉樹原木の入荷が悪く、生産を落として調整中。針葉樹原木在庫は大きく減少、広葉樹原木は横ばい。
- ・仕入れ、消費、在庫は変動なし。
- ・天候が落ち着き、減少傾向から若干増えてきた。FITの原木高騰対策のため一般原木値上げして入荷若干増。消費は変動なし。入荷の若干増で在庫も若干の増。
- ・スギ、ヒノキ間伐材等は一定のペースで入荷、ただし来年春からの発電用のため備蓄している、広葉樹は支障木を主に入荷は通常並み。スギ、ヒノキは発電用備蓄と製紙用減産のため在庫増、広葉樹は増産のため在庫は減。

(原木価格)

- ・原木高。
- ・木質バイオマスとの競争で値上がり続く。
- ・価格変わらず。
- ・針葉樹原木の値上げ交渉中。
- ・値上がり傾向。
- ・発電用の間伐材等の備蓄用で他の地域では高値の話を聞くが、そろそろ限界の値段域に来ているのでは集めるためにこれ以上の高値追随は控える。
- ・丸太の価格も若干落ち着いてきている状態。

26年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/11月	26/12月	27/1月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 30.0	△ 15.0	△ 25.0
	マツ類	△ 15.0	△ 20.0	△ 20.0
	広葉樹	4.2	△ 25.0	△ 12.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 36.4	△ 13.6	△ 22.7
	マツ類	△ 18.2	△ 31.8	△ 22.7
	広葉樹	△ 3.8	△ 23.1	△ 11.5
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 45.0
	マツ類	△ 55.0	△ 55.0	△ 50.0
	広葉樹	△ 27.3	△ 36.4	△ 36.4

・スギ・ヒノキ及びマツ類のチップ生産は3ヵ月連続して減少、広葉樹は11月の少しの増加の後、12月、27年1月は減少へ。

・出荷は、全ての品目で3ヵ月連続して減少。

・在庫は、全ての品目で3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)

品目	26/11月	26/12月	27/1月
スギ・ヒノキ類	16.7	4.2	0.0
マツ類	16.7	4.2	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・スギ・ヒノキ及びマツ類のチップ出荷価格はやや強保合から横ばいに、広葉樹は、3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・注文は横ばい。
- ・在庫減で生産減少。在庫なし、全量出荷。
- ・製紙会社は針葉樹チップの入荷を要請するが、原木が入らないため出来る限り広葉樹の生産をお願いしている。
- ・針葉樹チップ、ピンチップは、原木、背板、端材の入荷悪く生産減少、出荷量減少、在庫減少。燃料は解体材の入荷やや減少したが、在庫量が多いため出荷に影響がない、在庫横ばい。
- ・生産、出荷、在庫は変動なし。
- ・製紙用など受入に変動なし。FIT原木入荷増にて、単価高値のため製紙用チップ払い出し減。

(木材チップ価格)

- ・変わらず。
- ・変わらず。
- ・針葉樹チップは、製紙各社が値上げに動いている。
- ・10月よりマツチップやや上昇、11月分より広葉樹チップもやや上昇。
- ・当期値上げ有り。
- ・スギ、ヒノキは改訂があり、しばらくはこのレベルが適正。広葉樹はずっと変わらずで、輸入材と比べたらもう少し上がってもいい。